

いのちを守る福祉・防災都市東京へ！都政に憲法を！

都民がつくる革新都政

2014年10月15日 発行 = 革新都政をつくる会 発行人・中山 伸 〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10 東京労働会館5F 電話 (5978) 4031 ホームページ: http://kakushintosei.org/ E-mail: info@kakushintosei.org (1部25円、送料は別途)



暮らし・いのち・環境・平和守れ！都民が主人公の都政へ転換を訴える参加者＝都庁前・2014年9月17日

都議会第3回定例会 安倍暴走政権に追従するな！ 暮らし・いのち・環境・平和守れ！ 都民が主人公の都政へ転換を！

安倍政権が強行する集団的自衛権行使容認の閣議決定、違憲立法の秘密保護法強行、社会保障「改革」... 革新都政をつくる会は、午前8時から都庁前2ヶ所... 各団体代表が発言。「医療費助成制度の新規認定打ち切りと自己負担導入は許せない」...

舛添都知事は9月12日、都政運営の指針となる「東京都長期ビジョン」(仮称)の中間報告を発表しました。革新都政をつくる会は、「東京都長期ビジョン(中間報告)に対する見解を発表しました。(別添)



都教組 大山 圭湖



道路問題しながわ連絡会 多田康弘

東京都長期ビジョン(中間まとめ)への 各界からの声

グローバル人材の育成をねらい、一部の生徒の留学のため等に予算をつける。国や都の学力調査の下位層を減らすために、公立小中で「習熟度別授業等の展開」を行うなど、格差と競争を強める方向性を出しています。

特定整備路線推進に怒りを感ずる。幅広道路と両側の高層ビル群での延焼防止は、道路に囲まれた街中の大火を想定したもので真の防災対策とは言えません。住みなれた街から数千人を追出し、商店街を壊す道路はいりません。



臨海都民連 市川隆夫



東京民医連 今井晃

臨海開発に関しては、巨大コンテナ埠頭・大型客船バース建設、大規模道路整備、「アジア・ヘッドクォーター特区」への企業誘致などが目につきます。これは舛添氏も大企業優遇・活性化が雇用、賃金、税収増をもたらすという逆立ちした発想から抜け出せないでいる結果です。

東京都長期ビジョン(中間まとめ)について

2014年9月13日 革新都政をつくる会 事務局長 中山伸

ビジョンなき東京都長期ビジョン(中間まとめ) 舛添知事は、安倍内閣と一体となって国家戦略特区を推進することを表明し、就任早々「東京発グローバル・イノベーション特区」を提案し、12月末を目途に長期基本計画:「東京都長期ビジョン(仮称)」の策定をすすめています。そして、9月12日、「東京都長期ビジョン(中間報告)」を発表しました。記者会見した舛添知事は、230項目の数値目標を示し、「夢物語ではなく達成できる」と語りましたが、長期ビジョンの前提としての都民の暮らしと都市の実態がどのようになっているか、データとその分析が全くふれられていません。どこに問題があり、特徴は何か、それを分析して、課題や打開策を打ち出すのが政策です。実態と分析がない「ビジョン」は、ビジョンとはいえません。実際、今回の中間報告には、都民の厳しい生活の実態がつかまれておらず、それに立ち向かう都としての戦略も政策指針もありません。あるのは安倍政権の成長戦略を一体となって推進する姿です。加えて、都の長期ビジョンをつくるためには、10年後の東京の姿、人口動態や経済、社会がどうなっているかを明らかにすることが求められます。少なくとも東京都の財政はどうなっていくのか、将来推計は不可欠です。これがなくしてどんなに将来像を描いても、都民の納得と理解は得られません。

都民が主人公の長期ビジョンを

舛添知事は、「日々の生活に最も直結する福祉を重点にした」と説明しました。舛添知事は、都知事選でも「経済は、「小さな政府」、福祉は「大きな政府」を表明してきましたが長期ビジョンの作成にあたっては、切実な認可保育園や特別養護老人ホームの待機者対策をはじめ、福祉、教育、産業、防災、都市・環境、平和など都政に求められている重要な諸課題にどう取り組んでいくか、都政の根幹が問われています。しかし、都は中間報告へのパブリックコメント募集期間は、わずか2週間の期間です。これでは多くの都民の声をくみ尽くすことはできません。本格的に長期ビジョンをつくらうとすれば地域ごとでの都民集会を開催し、各団体から意見を聞き、議会、区市町村とも協議を重ね、学識者などの委員会もつくり、十分な検討を公開でおこなうべきです。革新都政をつくる会は、貧困・格差の解消や切実な都民の暮らし・福祉の抜本的な改善のたたかいを強化し、都民が主人公の都政への転換をめざす展望と政策を築いていくために力を尽くします。

連続シンポジウム part 3 舛添都政はどこへ向かうのか 日時: 11月22日(土) 午後1時開場 テーマ: 都民が安心してらせる東京へ 一地域コミュニティの力 会場: 四谷・主婦会館(プラザエフ) (JR「四谷駅」麹町口前)

青い空 さいたま市大宮区三橋公民館が同館の俳句会での互選句「梅雨空に「九条守れ」の女性「毛」を「公民館」より掲載拒否。館長は「世論が二つに分かれる問題で、一方の意見だけ載せられない」と説明。隣県での出来事と思っていながら「国分寺まつり(11月2日開催予定)」と「アサギ」(原発/国分寺の会)が「出店内容は政治的意味合いを持つと認められる」と市から出店拒否。「調布九条の会」「憲法ひろば」が来年1月に開く10周年記念イベントで調布市が後援拒否。九条の会「アピールの」日本国憲法を守る一点で手をつなぎ「改憲」の企てを拒むため」が「特定の政党を支持し、もしくはこれに反する」ための政治活動」として。東京の被爆者団体「東友会」が7月、都庁展望室で開いた原爆展。米国などの核実験に対する抗議行動の写真展示を断念。後援の都から「政治的意味合いがある」と誤解される」とのこと。▼「集団的自衛権」行使容認の閣議決定を強行した安倍政権の改憲の動きに自治体の過度の反応とみるか、憲法や平和をテーマにした市民団体の企画に後援取消しや会場使用不可の例が相次ぐ▼中立とか、政治的とかという仕分け自体が間違っていると断せざるを得ない。「表現も自由」に止まらない危機。(高)



